

## 令和2年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：道路課)

事業名 (路河川等名)	道路整備交付金事業(社会資本整備総合交付金) 一般県道 嬉野下宿塩田線(下宿工区)
継続・中止理由	<p>本路線は、嬉野市嬉野町と嬉野市塩田町を結び、長崎自動車道嬉野ICへのアクセス道路として、地域間の交流や物流促進が期待される重要な道路である。</p> <p>本計画区間を整備することで、嬉野市塩田町方面から嬉野ICへのアクセス性の向上と嬉野市街地を通る国道34号の交通の円滑化を図るとともに、歩道整備により、周辺に存する嬉野中学校の生徒や地域住民の交通安全の向上にも寄与するものであり、当初から事業の必要性に変化がないことから、引き続き事業を継続することとしたい。</p>
B/Cの 算出方法	<p><b>【 便益 】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 走行時間短縮便益 = 51.8億円</li> <li>・ 走行費用短縮便益 = 8.6億円</li> <li>・ 交通事故減少便益 = 4.6億円</li> <li style="padding-left: 20px;">合計 = 65.0億円</li> </ul> <p><b>【 費用 】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業費 = 35.8億円</li> <li>・ 維持修繕費 = 2.0億円</li> <li style="padding-left: 20px;">合計 = 37.8億円</li> </ul> <p style="margin-top: 20px;">費用便益 B/C = 65.0 / 37.8 = 1.72</p>
備考	

令和 2 年度再評価対象事業 ( 前回再評価時より工期延長または事業費増額を行う事業 )  
 ( 対象 : 平成 2 9 年度 再評価実施事業 )

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情勢等の変化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)
	H29 再評価 時点	道路整備交付金 事業  一般県道嬉野下 宿塩田線(下宿 工区)  事業主体: 県 事業地: 嬉野市 嬉野町下宿	本路線は、嬉野市嬉野 町と嬉野市塩田町を結 び、長崎自動車道嬉野IC へのアクセス道路とし て、地域間の交流や物流 促進が期待される重要な 道路である。 本計画区間を整備する ことで、嬉野市塩田町方 面から嬉野ICへのアク セス性の向上と嬉野市街 地を通る国道34号の交 通の円滑化を図るととも に、歩道整備により、周 辺に存する嬉野中学校の 生徒や地域住民の交通安 全の向上にも寄与するも のである。	全体事業費: 24.7億円  工期: H15~H31  事業内容: 延長 L=1,970m 幅員 W=6.5(15.0)m  改良工 L=1,970m 舗装工 L=1,970m 測定 一式 用地補償 一式	○H28末進捗率: 72.8% (事業費ベース)  (年平均進捗率5.2%)  用地補償契約 100.0%	・嬉野市への観光客数は 増加傾向にあり、嬉野IC へのアクセス道路の整 備により利便性の向上が 期待される。  ・九州新幹線西九州ルー トの開業に伴い、近傍に 嬉野温泉駅(仮称)が整 備されることから、駅を 中心とした新たな市街地 形成が図られる。	事業採択時と 比較して大きな 要因の変化は見 られない。  B/C = 2.06	(コスト削減) ・工事で発生した 残土を、他事業に 流用する。  (代替案の検討) ・特になし	再評価実施後5 年が経過のため 再評価	継続  (理由) 当該事業箇 所はバイパス による整備で あるため、整 備効果を発現 するために は、事業の継 続が必要であ る。 当該箇所の 事業の必要性 に変化がな く、交通の円 滑化と交通安 全を図るた め、事業を継 続したい。
	現時点	同上	同上	全体事業費: 28.3億円  工期: H15~R3  事業内容: 延長 L=1,970m 幅員 W=6.5(15.0)m  改良工 L=1,970m 舗装工 L=1,970m 測定 一式 用地補償 一式	○R1末進捗率: 90.1% (事業費ベース)  (年平均進捗率5.3%)  用地補償契約 100.0%		全体事業費増 額と工期延長に よる費用便益費 の減  B/C = 1.72	同上	前回再評価時よ り工期延長及び 事業費増額のため 再評価	継続  (理由) 当該箇所の 事業の必要性 に変化がなく、 交通の円滑化 と交通安全を 図るため、事業 を継続したい。
	理由等				工期・工事費 ・切土法面の変状発生に よる対策工法の検討及 び施工が必要となった ため。					

